

第169号

会津坂下農業普及所たより

平成24年8月1日発行



# みどりのこだま

会津坂下農業普及所  
金山普及所

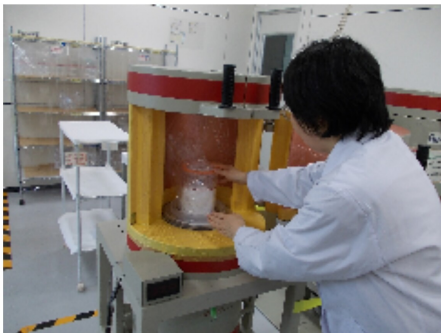
電話 0242-83-2112  
電話 0241-54-2801

米の全袋調査について

# 農産物の放射能検査のしくみ

県は、昨年3月の福島第一原子力発電所事故以降、農林畜産物の安全性を確認するため、「緊急時環境放射線モニタリング（以下、モニタリングという。）」を実施しています。モニタリングで基準値を超える濃度の放射性物質が検出された品目には、市町村単位に国から出荷や摂取の制限が指示されます。

昨年の当普及所管内の検査結果では、穀類、野菜、果実等の検査点数合計約900件中90%が不検出（ND）でした。本年4月からは食品の新たな基準値が施行され、穀類、野菜、果実等は一般食品として括られて、1kg当たり100ベクレルに変更されました。この変更を受け、県は農作物の吸収抑制対策と併せて、モニタリング体制を一層強化し、出荷・販売を目的とした農林水産物を対象にゲルマニウム半導体検出器によるモニタリング検査をきめ細かに実施しています。



本年、現在までのところ野菜や果実の検査結果で基準値を超えたものは無く、出荷が制限されている野菜や果実の品目は当普及所管内にはありません。当普及所では、JA及び各町村と調整しながら計画的にモニタリング検査を実施しており、個々の農家の方からの検査申し込みはお受けしておりませんが、ご不明の点があればお問い合わせ下さい。なお、山菜類やきのこ類の検査は、会津農林事務所森林林業部（電話0241-24-5734）が担当しています。

## 放射性セシウム吸収抑制対策

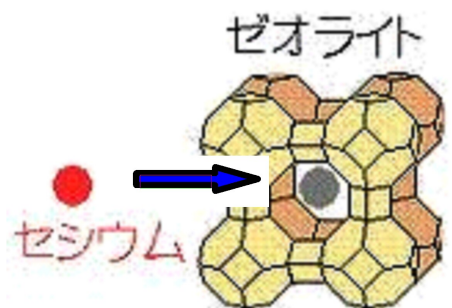
### ～カリ肥料やゼオライト施用の理由と方法～

#### ◆ カリ肥料について ◆

土壌中のカリ成分が少ないと、作物はカリの代わりに放射性セシウムを吸収する傾向にあります。この傾向は多くの作物に共通しており、水田では、土壌中の置換性カリ濃度が高いと（土100g当たり25mg以上）、水稻の放射性セシウム吸収が強く抑制されることが明らかになっています。管内水田の土壌調査結果では、カリ濃度が低いほ場が数多く見られ、通常のカリ施肥量（慣行では成分量で8kg）では足りないほ場が多く見られるため、本年はこれにカリ成分量で2kg以上うわ寄せすることをお願いしてきました。

#### ◆ ゼオライトについて ◆

放射性セシウムは様々な粘土鉱物や堆肥分（腐植）に吸着される性質があります。この中でも、粘土鉱物の一種であるゼオライトの吸着力が強く、一度吸着されると容易に溶出しない状態となります（右図）。その効果は全ての作物に共通しますが、施用量が多くなると十分な効果を発揮しないこと、その反面で、一度に大量に施用すると作物が必要な土壌中の養分を吸収しにくくなる恐れがあることから、施用量は1回に10a当たりで100～300kgとし、できれば連年施用していただくことをお願いしています。



ゼオライトの放射性セシウム吸着のしくみ

立体構造の真ん中の穴にセシウムが取り込まれ、溶出しにくい状態となります。

# 「人・農地プラン」をとおして、地域農業の方向性をもう一度考えてみましょう

県では、平成17年度より「ふくしま型集落営農」の推進に取り組んでおり、現在までに、当地域の多くの集落において農用地利用改善団体が設立されています。

しかし、昨年の東日本大震災・原発事故による放射性物質吸収抑制対策や風評払拭のための取り組み等が必要となり、また、昨年度より農業者個別所得補償制度が本格実施となるなど、集落や地域農業の方向性について再度検討する必要がでてきています。

このような中、国では今年度より各地域の「人と農地の問題」の解決に向けた施策を実施し、「人・農地プラン（地域農業マスタープラン）」と呼ばれる計画を作成した集落等へ新規就農・農地集積・融資制度に関する支援を行うこととしています。

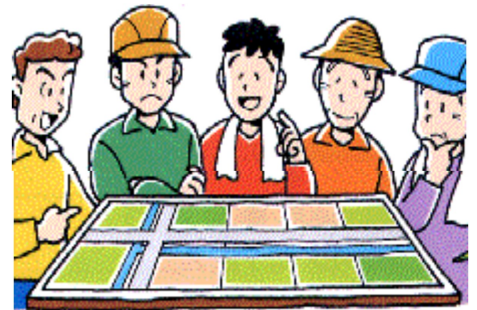
この「人・農地プラン」には集落や地域の話合いによって決めた、

- ・今後中心となる経営体の明確化
- ・中心となる経営体へどのように農地を集積するか
- ・今後の地域農業のあり方 など

について記載し、町村が検討会を開催して審査、決定します。

「人・農地プラン」に位置づけられると、

- ・青年就農給付金（経営開始型）
- ・農地集積協力金
- ・スーパーL資金の当初5年間無利子化（認定農業者）



の支援を受けることができます。

プラン作成にあたっては、最初からパーフェクトなプランにする必要はありません。「人・農地プラン」は集落等の状況の変化に合わせた見直しや、必要な部分から始めて、順次拡大していくこともできます。

地域の皆さんの多くが、5年、10年後の農業のあり方について漠然とした不安を抱えている今、「人・農地プラン」を土台に、少し先のことから話し合ってみましょう。

## 昭和村では、エゴマ栽培の機械化 体系確立に取り組んでいます

昭和村農業委員会では今年度、遊休農地解消作物として「エゴマ」の機械化技術実証に取り組んでおり、6月28日に自走式移植機によるセル苗移植のデモンストレーションが実施されました。

今回使用されたのはK社の半自動移植機で、最初にK社のオペレーターによる説明と実演が行われた後、農業委員の方々が交代で移植機の運転やセル苗の補給等を行い、実証ほ約10aの移植作業は2時間程度で無事終了しました。

土壌が乾燥状態であったため後日給水や補植を行いました。現在は順調に生育しています。

今後は中耕除草や増収のための摘心を行い、10月中旬頃の成熟期には普通型コンバインによる機械収穫に取り組む予定です。





# 《 農事組合法人アグリサポート柳津 》 が設立されました

平成24年3月26日に農事組合法人「アグリサポート柳津」が設立されました。

組合員8名、JA1組合、の組織です。相互の協業を図ることにより、生産性の向上と低コスト化に取り組み、また農業経営の合理化を図り、柳津町の農業の発展に寄与することを目的に設立されました。

今後も共同利用施設を運営し、さらに農作業の共同化へも取り組む予定です。「アグリサポート柳津」の設立により柳津町農業の振興・発展が期待されます。



## 昭和村の花育事業を紹介します



仲卸店頭での  
カスミソウ販売体験

この事業は、村の主産業であるカスミソウを通じて、子供達に「村の産業を知ってもらうこと」「生産から消費までの流通を学んでもらうこと」「花を楽しみ、飾りたいと思う心を育んでもらうこと」を目指しています。

今年度は村の中学生を対象に6月から、カスミソウの栽培体験や中央卸売市場でのセリ見学や店頭販売体験を実施しています。



大田市場でのセリ前  
挨拶の様子

昭和村は、夏秋期のカスミソウ出荷量が日本一の産地です。主産業のカスミソウが地域の経済を支えるとともに、今後は学校教育にも寄与していくことが期待されます。子供達が地域のことや社会の仕組みを学ぶため、カスミソウ産地が教育をサポートしています。

## ビックリジャンボ(ヒラザヤインゲン)がおすすめです



会津西部地域の冷涼な気候を生かして、ビックリジャンボが栽培されています。今年は天候にも恵まれ、順調に生育しています。マルザヤインゲンと比較してもその大きさにビックリするはず。直売所等、店頭で見かけた際はぜひご賞味ください。おすすめの料理方法は素揚げです。

## 転入職員を紹介します

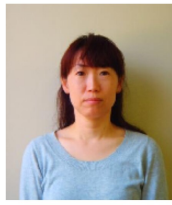


9年ぶりに会津坂下農業普及所に戻ってきました。

稲・麦・大豆・ソバ、農業士を担当します。

穴澤 崇

みなさんと一緒に、安全でおいしい米づくりを進めていきます。よろしくお願いします。



畜産を担当します、一条です。畜産の他に集落営農、6次化推進も担当いたします。

会津坂下地域から日本一の特産品を創り出せるよう、皆さんと頑張りたいと思います。ぜひ、ご相談ください。こちらからも、たくさんお伺いします。

一条 晶恵